

1

平和

負ける

落ち

2

寒く

湯水

飲食

① カ
② イ
③ エ

2 A 見

B 気

C ざ

D も

3 ウ

4 四

5 エ

6 I のけ

II わたしと

7 (記述題)

8 I 一む

II 大人野々花

9 れた

3

1 A 百

B 多

C 半

2 I 視る

II 時間

3 遠及

4 ③ ア ④ エ ⑦ イ

5 イ

6 I 1

II 2

III 1

2

7 あげることと不安なとき、近くにいて

(同意可)

配点	
1・2・3	各2点×13=26点
2	7点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

- 1 「平」の四面めが一画めよりも長くなるように意識して書く。
- 2 「負けるが勝ち」とは「あらそわず、相手に勝ちをゆずったほうがかえって自分にとってはよい結果となる」ということ。
- 3 「落」の「洛」を「くさかんむり」の下にくるように書く。
- 4 「寒」の四画めから八画めは正しくおぼえよう。縦棒をつらぬくように横棒を書く。また、横棒の数にも気をつけよう。
- 5 「湯水のように使う」とは「金銭などをおしげもなく使う」ということ。
- 6 「飲」の「しよくへん」は「食」ではないことに気をつけよう。

2

- 1 「ちょっと聞きたいことがあるんだけど……」↓「ねえ、お母さんって、どこか具合悪いの？」と、聞きたいことを思い切って聞いていることから、(1) (2) (3) は答えが決まる。(4) (5) (6) は「心臓」が「波打つ」という表現から決められるだろう。
- 2 A「見て見ないふり」は、実際には見ていたのだが、見ていなかったようにふるまうこと。B「気がかり」は、どうであるのか、どうなるのか気にかかること。C「洗いざらい」は、何から何までということ。D「いてもたってもいられない」は、不安や待ち遠しさのためにじっとしてられないということ。
- 3 線のことばだけを見て答えを決めるのではなく、その前後も必ず確認しよう。美琴に心配をかけたくなってごまかそうとしたが、美琴が不安な気持ちを抑えきれず泣きじゃくってしまい、「ちゃんと話す」と伝えている場面である。
- 4 文学的文章を通読する際には登場人物や設定の確認を怠らないようにしよう。おばあちゃんと響子と美琴、そして、朱美と優菜と野々花でそれぞれひとつの家族であった。その二つの家族がもしものことがあったときのことを考えて「一緒に住む」ことになったのである。「わたしと野々花だけが知らなかったの?」「子どもは知らない方がいいと思ったの」が手がかりになっただろう。

- 5 響子やおばあちゃんが亡くなったたり朱美がいなくなったりという子どもに伝えないほうがいいと思っていた同居の理由を美琴に伝えていた場面である。その深刻さを「運命共同体」と笑いながら言うことでごまかしたかったのである。
- 6 ここより前で美琴が怒っているのはわかるだろう。あとは指定の字数に合うことばをさがしていこう。そして、野々花だけがわかってくれるというのは、何か二人に共通点があるのではないかと見当をつけて考えてほしい。
- 7 ことばどおり「美琴の隣で寝ること」ができることをよかったと言っているわけではないのはわかるだろう。今、心の中が不安でいっぱいになっている美琴の近くにいることができるよかったですと言っているのである。
- 8 Iは「朱美ちゃんと何度も話し合って決めた」「美琴と野々花ちゃんを守る」という表現が手がかりになるだろう。IIは4とも関連している。「大人が四人いれば安心だと思った」が、美琴は今、野々花がいてくれることで安心しているのである。
- 9 「そう言ってお母さんは」とあるので、この一文をもどすべき箇所直前にはお母さんの発言があるはずである。そして「病名を口にした」のだから、そのお母さんの発言の中で病名のことについて触れているはずである。

3

- 1 間違えたものがある場合は意味までふくめて覚えておこう。今回の四字熟語に限らず、さまざまなことばを普段の生活の中で使えるようになっていこう。
- 2 普段から「どういうことか」「なぜなのか」というような疑問を持ちながら、文章を読み進めていってほしい。第一段落と第二段落で、医療の世界にもAI化が広がっているということが書かれていた。「なぜ広がっているのか」といったことを考えながら後続部分を読んでほしい。そうすると第三段落に「そこで注目されているのが画像診断支援です」とあった。「そこで」がどういう内容を受けているのかを考えよう。
- 3 難解に感じる文章に出会ったときこそ、文章を大きく切り分けるイメージを持って読んでほしい。文章のほとんどの部分で「画像診断支援」について書かれているが、最終段落に「画像診断支援と並んで、AIによる技術革新の成果が期待されているのが」とあった。
- 4 「日本ではまだ承認されていません」↓「世界各国で進められています」という流れなので(3)には「しかし」が、「AIを用いる研究」の例が(4)より後で書かれているので「たとえば」が、「新潟大学を中心とした研究グループ」と「大阪大学の研究グループ」が並べられているので(7)には「また」がはいる。
- 5 「スタンフォード大学」「ハノイ工科大学」について書かれている段落を最後まできちんと読めば答えやすかっただろう。「確定診断がついた症例について91%以上の領域で、皮膚科医とAIの診断が一致」「皮膚科医全員の診断精度よりも、AIの診断精度のほうが上回っている」ということから、AIの診断精度が高いということが言えるだろう。
- 6 内容正誤の問題は本文ときちんと照合することが重要である。文章を読み終わった際に記憶だけに頼って答えられないようにしてほしい。I:本文四段落から皮膚疾患以外のさまざまな病気の診断に使われていることがわかる。II:五段落に「日本ではまだ、皮膚疾患に関する画像診断支援AIは承認されていません」と書かれているので不適。III:本文の最終段落から、「AIによる画像診断技術」だけでなく「次世代の高速・大量通信である5G」や「高精細画像技術である4Kや8K」などが組み合わせることによって高度な医療を遠隔で受けることができるようになるだろうと書かれてあった。